

こんな子どもが皆様からの「ご支援」を待っています。

祖母と2人だけの生活の為、毎日働かなければならない女の子のたった一つの願いは「勉強する機会が欲しい!」



屋根に葺く茅を織っているチャー



チャーと祖母



「小学校を卒業して今年5月に中学校に入学します。それまでの休みの間は中学校で必要となる費用のためアルバイトをします。」これは2017年度の中学校進学のための奨学金に応募してきた生徒の一人、シリカンヤー・バーンプラコンさんの自己紹介の手紙の一部です。

シリカンヤー・バーンプラコンさん、ニックネーム、チャーさんは14歳ですが小学校6年生で、プリーラム県のバーンラムナンロン小中学校に通い、母方の祖母と二人だけで粗末な家に住んでいます。両親は3歳の時に離婚し、父親は新しい家族と生活しています。学校に2、3度訪ねて来ましたが、ここ2、3年は姿を見せません。母親はプーケット県に出稼ぎ中で、年に1、2回帰省します。仕送りは3、4ヶ月に一度、1,000～1,500バーツ程です。

チャーさんの祖母、ワンニー・サウェーンドントリーさん(65歳)は日雇いの仕事のため収入は不安定、サトウキビの収穫、草刈り、ゴムの樹脂集めたといった重労働は、高齢のため現在は難しいです。そのため毎月の収入は不十分で、チャーさんは祖母の仕事を手伝ったり、時には祖母の代わりに仕事をします。放課後と土日に手伝うのは屋根に葺く茅(かや)を織る仕事です。乾燥した茅と道具が家に持ち込まれ、祖母とチャーさんが指定の大きさに茅を織ると、1つ7パーツで引き取られ

ます。放課後は急いで帰宅して仕事をしますが、宿題や家事もあるので、1日で仕上がるのは1つか2つです。この仕事で祖母とチャーさんが得る収入は毎月500～700バーツで、これは学校に関わる費用や食費になります。

チャーさんの学校での様子を先生に聞きました。「両親が離婚後は父方の祖母と父親、父親の新しい家族と一緒に住んでいました。父親は仕事に出ると何週間も帰宅しない事があり、チャーさんの勉強を見る時間を満足に持てず、チャーさんは小学校1年生で留年しました。2年生に進級する時に母方の祖母と暮らす事になり、この学校に転校してきました。その祖母は小学校2年生までしか学校を出ておらず、勉強を見てあげる事ができません。チャーさんは読み書きが不得意で、授業で友達についていけない時がありま

す。ですが学校にいる時はいつも負けない様に頑張っています。留年した事を同級生がからかっても、チャーさんは怒った事はありません。頑張って勉強して、よく先生の手伝いをしてくれます。」

1つだけお願いができるとしたら、今は何をお願いしたいか、EDFのスタッフはチャーさんに質問しました。「勉強の機会が欲しいです。読み書きがしっかり出来るようになり、知識を得て就職し、祖母を養いたいです。」とチャーさんは答えました。「将来は警察官になりたいです。福利厚生が手厚く、自分と祖母が生活できるからです。」

チャーさんの話はEDF財団の奨学金に応募してきた子供の一例です。彼らは必ずしも勉強が得意ではなく、成績が優秀ではありませんが、勉強熱心で、将来の仕事のために知識を必要としています。足りないのは勉強する機会と学費です。このチャーさんの辛い中でも頑張っている話を読まれた皆様も、彼らに勉強の機会を贈る事が可能なのです。

2017年度進学の子どもたちへの募金は、2017年5月31日まで行っていますので、恵まれない子どもたちに、教育を通して、夢を待つことの出来る機会を与え、将来、この子供達が、タイの社会を支える良い大人になっていくために、皆様には、これからも引き続きご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

元奨学生のご紹介



氏名: Ms. Araya Ngoipadphan (25才)

出身地: タイ東北地方のサコンナコーン県

教育: 栄養と食品安全管理学科公衆衛生学部マハーサラカム大学 (国立大学)

奨学金をもらった期間: 2011年～2014年 (大学課程)

現在の職業: バンコクのナワミン9病院で働いています。仕事は病院の管理栄養士で患者の身体状況・栄養状況を判断し、回復を早めるための適切な食品や摂取方法等食事全般についてアドバイスをしています。

奨学金を貰えることが分かった時はどう感じましたか。

本当に嬉しかったです。大学の理科系の学費などたくさん費用がかかりますので本当に助かりました。

奨学金提供者と奨学生の皆さんに何か言いたいことがありますか。

最初にEDFを通して私と全ての奨学生に奨学金を提供して下さった支援者の皆様に心からお礼を申し上げます。そのご支援を戴く幸運がなかったら、今の様に人に役立つ仕事に従事できる今日の私はいなかったでしょう。そして、支援者と学生の為に、仲介者として親切で適切なコーディネートして下さったEDFの皆様には本当に有難く思います。現在の全ての奨学生の皆さんに言いたいことは、思いやりのある方々から、私たちの教育レベルを向上させる「機会」を得たら、自分と自分の家族のために、自分が何をすべきかをしっかり把握して、戴いたその「機会」を最大限に生かして欲しいです。学生の皆さんは、夫々に将来叶えたい夢を持っていると思います。その夢が叶えるまで本気で頑張れば、必ず実現できると信じています。



「クリスマス・お正月・中国正月」のプレゼントキャンペーンの報告

2016年11月から2017年1月31日まで「クリスマス・お正月・中国正月」のプレゼントキャンペーンを実施しました。たくさんの皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。今回のご協力で下記のプレゼントをお届けすることができましたのでご報告致します。

- ・ 文房具セット 128セット (64,000パーツ)
- ・ 日用品バック 78セット (78,000パーツ)
- ・ 自転車 104台 (208,000パーツ)
- ・ 特別な奨学金 126,571パーツ
- 合計 476,571パーツ

彼らに素晴らしい・嬉しいクリスマスやお正月を贈って戴いた支援者の皆様に農村部の子どもたちに代わり、改めて感謝申し上げます。



ニュース・イベント

真如苑(タイランド)財団が奨学生の家庭訪問



2017年2月18～22日
真如苑財団の日本人の代表者3名はバンコクとチェンマイ県に居住している31人の奨学生の家庭を訪問しました。今回は学生一人一人と毎日の生活や奨学金の使途などについて話しました。又、奨学生に大学卒業、自分にあった仕事と将来の進路についてアドバイスしました。

バンコク福岡県人会が2年目の奨学金ご寄付



2017年1月30日
タイ福岡県人会会長の岡本貞明様より、33,684パーツのご寄付金を戴きました。この暖かいご支援は福岡県人会の皆様によるゴルフコンペで集められたものです。これは2017年に中学校に進学する子どもたちに奨学金として提供されます。

The Education for Development Foundation (EDF)

50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao Jatujak, Bangkok 10900

Tel. 0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax. 0-2940-5266

Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ: 一般財団法人 民際センター

〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F

TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783

Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org